

入選

小さな親切をしよう

福岡県 稗田小学校

五年 中野 暁仁

「ああ、やさしい親切な人がいて、助けられてよかった。」

と、病院から帰ってきた祖母は、ぼくに話してきた。今、世界中コロナで外出するときは、必ずマスクが必要な時代。祖母も、当然マスクをして病院に行ったが、待合室で順番を待っているときに、マスクのひもがはずれてしまったそうだ。

祖母は、あわててバッグの中の持ち合わせのマスクを探してみたが、いつもよぶんに入れているマスクが見当たらない。どうしようか、薬局に買いに行く時間があるだろうかと不安になって、マスクを手でおさえていると、となりにすわっていたわかい女の人が、困っている祖母を見て、

「よかったら、これ使ってください。」

と一枚のマスクを、祖母に手渡してくれた。祖母は、何度も頭を下げて、

「ありがとうございます。」

とお礼を言うと、

「困っているときは、おたがいさまですよ。」

と女の人は、にっこり笑って答えてくれたそうだ。そのとき、祖母は、そのわかい女の人が天使に見えたそうだ。そして、ぼくに、

「親切にされると、幸せな気持ちになるよ。あつくんも、困っている人がいたら、だれにでも親切にしてやるんだよ。」と言った。

ぼくは、親切について考えてみた。困っている人に親切にするって、なかなかむずかしい。まず、自分からできることの一つとして、人に会ったら、必ずあいさつをしようと思った。

ぼくの家のとよりは、一人ぐらしのおばあちゃん。ぼくが登校しているとき、毎朝犬の世話をしている。今までは、会うと頭を下げただけで、あいさつをしなかったが、勇気を出して

「おはようございます。」

と大きな声で言うと、おばあちゃんも、

「おはよう。元気をもらったよ。」

と、にっこり笑って答えてくれた。ぼくは、ちょっとしたあいさつで、こんなによろこばれて、ぼく自身も、幸せな気持ちにしてくれるってありがたいなと思った。

それからは、人に会うと、大きな声で必ずあいさつをしている。祖母が、となりのおばあちゃんの犬の具合が悪くて、病院に連れて行ったとき、

「お孫さんが、よくあいさつをしてくれるので、うれしいです。一人ぐらしも、さびしくありません。」

と、話してくれたそうだ。

これからも、ぼくは、自分にできる小さな親切をしていきたいと思った。